

福島第一原子力発電所

1号機原子炉建屋カバーの解体について

2014年11月13日

東京電力株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所



東京電力

1号カバー解体について(2/4)

■ 調査結果に基づき建屋カバー解体時の飛散抑制対策の有効性を確認するとともに、散水設備やガレキ撤去方法等、ガレキ撤去計画の策定を進めます。

飛散防止剤の散布と調査のステップ

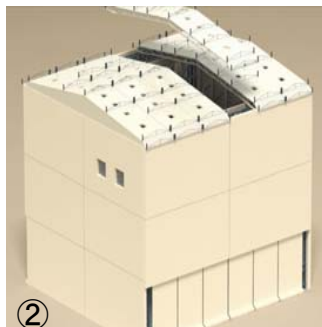
※ オペフロ: 建物最上階にある作業フロア

- ・ 飛散防止剤散布
屋根貫通：計48箇所
屋根の裏面にも散布

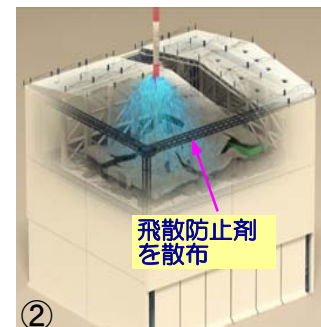


約1週間

- ・ 屋根パネル1枚目取り外し
- ・ カバー内ダストモニターで飛散抑制状況を確認

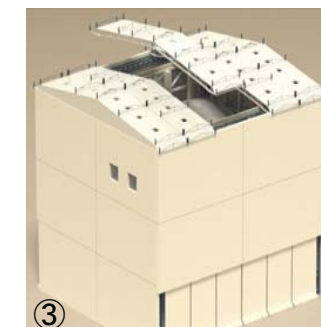


- ・ 屋根パネル1枚目取り外し部分から飛散防止剤散布
- ・ 内部調査も実施



約1週間

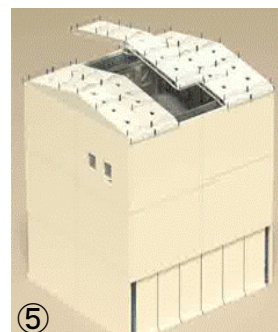
- ・ 屋根パネル2枚目取り外し
- ・ 飛散防止剤散布



- ・ 屋根パネル2枚目取り外し後、一定期間ダストの状況を傾向監視
- ・ オペフロ調査



- ・ 屋根パネル2枚を戻す



約3週間

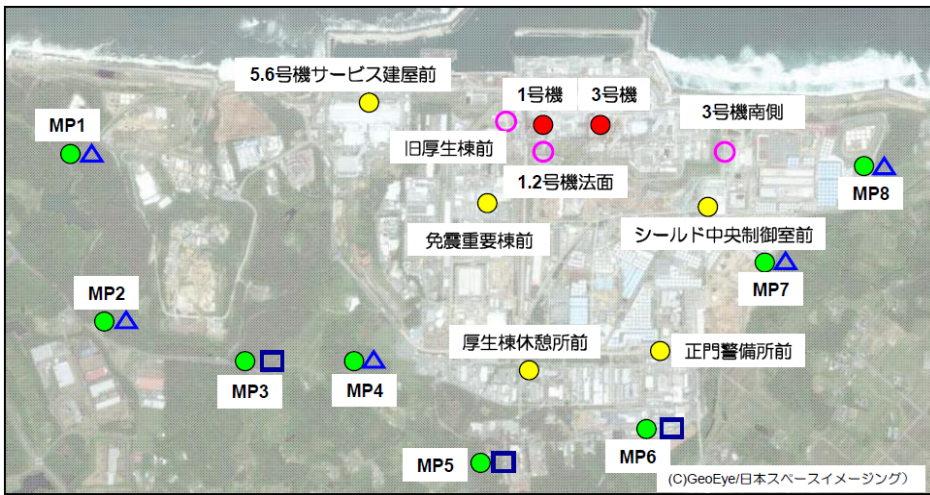
- ・ 調査結果の分析、評価
- ・ ガレキ撤去計画の策定 等

約3ヶ月

1号カバー解体について(3/4)

- 3号機の作業でダストが飛散した状況をふまえ、オペフロ上および原子炉建屋近傍での放射性物質濃度の監視体制を強化しています。
- モニタリングポスト(※1)もしくはダストモニタ(※2)で警報が発生した場合は、直ちに作業を中断し、全面マスクの着用や飛散防止剤の散布などの対応を行うとともに、自治体への通報連絡やマスコミへの公表を行います。

敷地内の監視体制

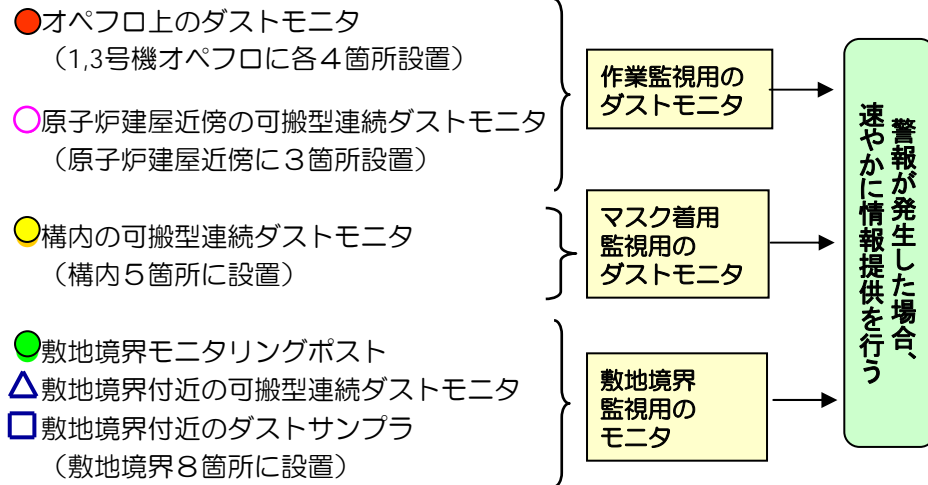


■ 敷地内の監視体制は、昨年の3号機でのダスト飛散以降強化しています。

敷地内監視体制	3号機 事象発生前	3号機 対策後	1号機 (今回)
オペフロ上 ダストモニタ	なし	3箇所	8箇所※ (1,3号機合計)
建屋近傍 ダストモニタ	なし	1箇所	3箇所
構内(マスク着用監視用) ダストモニタ	4箇所	4箇所	5箇所 (全面マスク不要エリア拡大に伴い)
敷地境界付近 モニタリングポスト	8箇所	8箇所	8箇所
敷地境界付近 ダストモニタ(一部ダストサンプラ)	なし	なし	8箇所

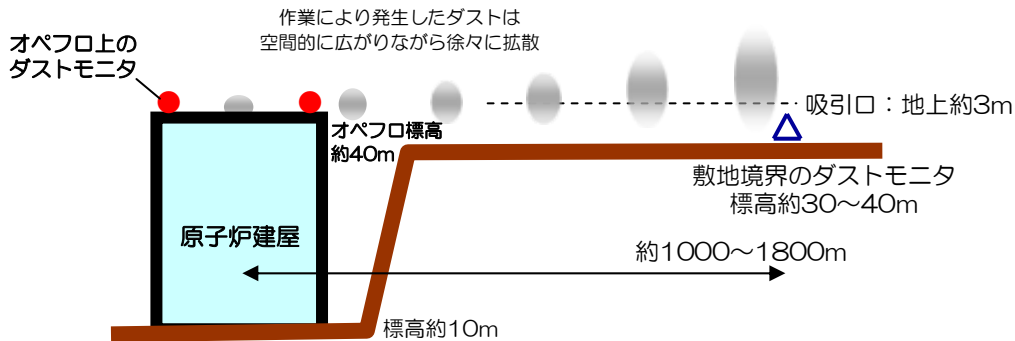
※建屋カバー解体に伴う、測定点の移設・追設期間を除く

■ 各ダストモニタ、モニタリングポストの監視体制の位置づけを示します。



敷地境界付近の連続ダストモニタによる監視について

- オペフロの高さは標高約40mであり、一方、敷地境界の標高は20~40mあるため、万一、ダストがオペフロ上から飛散した場合、敷地境界でダストの検知は可能と考えています。
- また、原子炉内の温度は約40℃であるため、吹き上げ高さは小さいと考えています。



※1:モニタリングポスト

空間中の放射線(Sv/h)を監視する装置。

※2:ダストモニタ

空気中の放射性物質濃度(Bq/cm³)を測定する装置。周囲の空気を吸引口から連続的に採取し、放射性物質をフィルタ上に捕集して測定する。

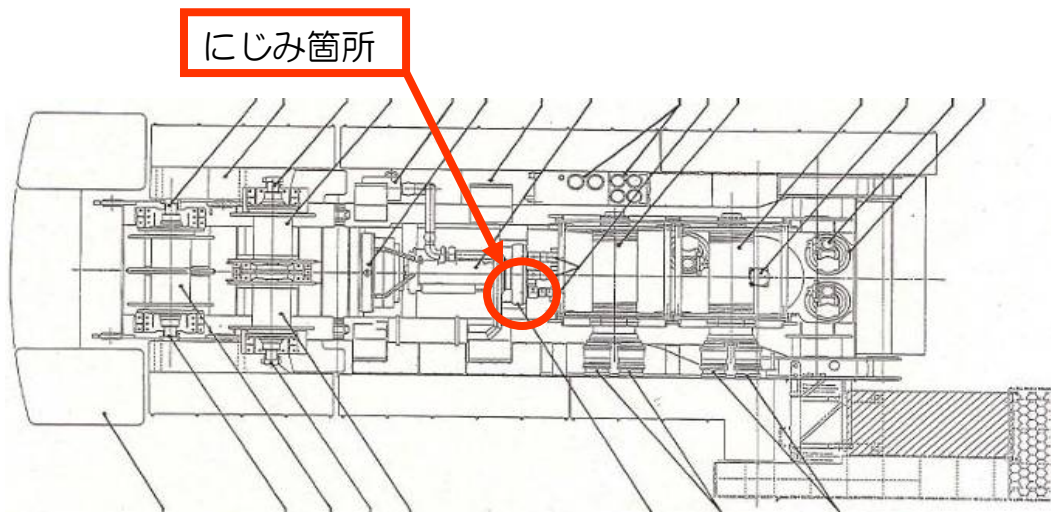
■事象

本今朝、1号機原子炉建屋カバー解体工事に使用する750tクローラークレーンの始業前点検を実施した際、油圧系統の配管からの作動油のにじみを確認した。

■対応

作業安全に万全を期す観点から、本日、750tクローラークレーンを使用する作業は中止した。
今後、にじみ箇所の配管を交換、点検実施ののちに、750tクローラークレーンを使用する作業を再開する予定。

現時点で、にじみ箇所の配管の交換、点検実施は11月17日を見込んでいる。



750tクローラークレーン上部本体図

